１０．貞山堀運河（ていざんぼりうんが）

選定箇所：北上～東名運河を含む全長４９ｋｍ（宮城県岩沼市～石巻市）

概要：仙台湾沿岸（阿武隈川～旧北上川）の総延長約４９㎞ をつなぐ、日本一の運河群「貞山運河」は、慶長年間（１６００年代）から明治２２年（１８８９）の間に、北部・中部・南部に分けて開削された。

運河の名称は明治時代に宮城県土木課長で仙台市長も務めた早川智寛が、仙台藩祖・伊達政宗を事業の発案者とみなして、諡（おくりな）に因み「貞山堀」としたと言われている。貞山堀の各区間は南から木曳堀（阿武隈川河口-閖上）、新堀（閖上-蒲生）、御舟入堀（蒲生-塩竈港）、東名運河（塩釜湾-野蒜）、北上運河（野蒜-北上川）と呼ばれ、材木輸送など舟運で利用された。

東日本大震災の津波によって運河の大半が被災し、特に松並木が見事だった木曳堀から新堀では多くの松が枯死した。土堤であった同区間は拡幅やコンクリート護岸で大きく姿を変えてしまったが、岩沼市内など一部では、関係者の努力によって松並木の保全が行われ、往時の姿をしのぶことができる。